

2023年4月28日

正 会 員

一般社団法人日本作業療法士協会
選挙管理委員会

2023年役員選挙告示

2023年2月15日付けで公示した一般社団法人日本作業療法士協会役員改選について、3月23日付けで立候補を受理し、また4月19日付けで理事会推薦候補を受理したので下記のとおり報告します。

記

1 候補者氏名 ※番号は氏名の五十音順。氏名、(年齢)、所属を記載。

(1) 理事 定数：20名以上24名以下

1 池田 勝彦 (34)市立吹田市民病院	13 高橋 香代子 (43)北里大学
2 池田 望 (58)札幌医科大学	14 竹中 佐江子 (44)株式会社リニエR
3 上田 裕久 (45)株式会社豊結会	15 辰己 一彦 (46)株式会社UTケアシステム
4 大庭 潤平 (48)神戸学院大学	16 谷川 真澄 (60)有限会社なるぎ
5 香山 明美 (63)東北文化学園大学	17 谷口 敬道 (57)国際医療福祉大学
6 小林 毅 (60)日本医療科学大学	18 土居 義典 (43)有限会社総合リハビリ研究所
7 酒井 康年 (52)うめだ・あけぼの学園	19 能登 真一 (57)新潟医療福祉大学
8 佐藤 孝臣 (54)株式会社ライフリー	20 早坂 友成 (46)杏林大学
9 島崎 寛将 (42)大阪府済生会富田林病院	21 二神 雅一 (57)株式会社創心會
10 清水 兼悦 (60)札幌山の上病院【理事会推薦候補】	22 三澤 一登 (61)愛媛十全医療学院
11 関本 充史 (44)株式会社リニエL	23 村井 千賀 (62)石川県立こころの病院
12 高島 千敬 (50)広島都市学園大学	24 山本 伸一 (58)山梨リハビリテーション病院

(2) 会長候補者 定数：1名

1 小林 毅 (60)日本医療科学大学
2 関本 充史 (44)株式会社リニエL
3 山本 伸一 (58)山梨リハビリテーション病院

2 役員選挙と会長候補者投票を下記のとおり実施します。

投票人(有権者)：社員(代議員)

投票の場所：インターネット投票 投票サイト URL：https://i-vote.jp.net/

投票の日時：2023年5月9日(火)0時～5月19日(金)正午

投票の開票：2023年5月19日(金)

なお投票用のIDとパスワードは、5月8日(月)15時以降に、各社員へメールで送付します。

3 理事の選出について

- (1) 理事については、24名の候補者に対して信任投票を行い、過半数の賛成票を得た候補者は社員総会での決議を経て理事に選出されます。
- (2) 過半数の賛成票を得た候補者が20名未満の場合は再投票を行います。再投票の場合は、5月27日（土）に公示し、改めて立候補者を募ります。

4 会長候補者の選出について

- (1) 会長については、3名の候補者に対して投票を行い、過半数の賛成票を得た候補者について総会選出会長候補とし理事会へ意見提出され、理事会において選定されます。
- (2) 過半数の賛成を得た候補者がいない場合は、賛成票数上位2者による決選投票を行います。決選投票の場合は、5月19日（金）に告示し、5月22日（月）に社員へ決選投票施行のメールを送付します。

投票人（有権者）：社員（代議員）

決選投票の場所：インターネット投票 投票サイトURL：<https://i-vote.jp.net/>

決選投票の日時：5月22日（月）19時～5月26日（金）23時59分

決選投票の開票：5月27日（土）

以上

問い合わせ先：

一般社団法人日本作業療法士協会選挙管理委員会

Eメール：senkan2023jaot@gmail.com

2023年 選挙公報

2023年の役員選挙と会長候補者投票における候補者について、以下の情報を掲載します。
掲載は五十音順です。

- ・氏名
- ・年齢（本人申告のもの）
- ・所属都道府県（本人申告のもの）
- ・写真（本人申告のもの）
- ・所属施設（本人による任意提出のもの）
- ・立候補の趣旨（本人による任意提出のもの）
- ・略歴等（本人による任意提出のもの）

理事立候補

理事 1

	氏 名	池田 勝彦
	年 齢	34
	所属都道府県	大阪府
所属施設		
市立吹田市民病院		
立候補の趣旨		
<p>協会組織の新陳代謝には1人ぐらい35歳以下の理事がいてもいいのではと感じています。その背景には協会組織率が60%を下回り危機感を感じています。</p> <p>35歳以下の資格保有者が半数以上を占める作業療法士が魅力的でかつわくわくするような協会改革に携わりたいと強く思っています。</p> <p>35歳以下の教会員の本音をぶつけ、個々に還元できるように進めていきます。</p> <p>今の自分には協会内で危機感を声にあげることしかできませんがぜひ、よろしくお願いいたします。</p> <p>作業療法士の見える化を意識し、積極的にSNS等で協会活動を発信したいと思います。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>職歴</p> <p>2010年 作業療法士免許取得</p> <p>2010年 社会医療法人協和会加納総合病院</p> <p>2017年 兵庫県立尼崎総合医療センター</p> <p>2018年～現職 市立吹田市民病院 主任</p> <p>協会活動歴</p> <p>大阪府作業療法士会 代議員（2019年～）</p>		

理事 2

	氏 名	池田 望
	年 齢	58
	所属都道府県	北海道
所属施設		
北海道公立大学法人札幌医科大学		
立候補の趣旨		
<p>今期、国際部副部長担当理事として各種国際交流や海外研修助成等の事業を担当してきました。国際部は会員が世界的視野で作業療法の現在を知り、自らの作業療法実践に還元する機会を提供する重要な役割を持っています。コロナ禍ではありましたが、WFOT への参画はもちろん、台湾との国際協力協定や海外研修助成など、事業が発展するなかで少しでも貢献できたことをうれしく感じております。日本では子供・高齢者・障害者を含めた地域共生社会を実現するため、地域包括ケアシステムのさらなる構築に向けて様々な取り組みが進んでいます。一方、在宅におけるリハビリテーション支援のシステム構築、精神障害を持つ人の地域移行支援、教育・司法・就労・災害における支援など課題は多岐にわたっており、今後は産業保健など、作業療法の貢献が期待できる領域にも広く取り組んでいく必要があります。その取り組みを支えるものとして、柔軟で迅速な情報収集と分析能力、意思決定が可能となる組織体制の再構築が進められており、次年度から事務局機能の強化を目指した新体制が動き出します。次期体制に移行後は組織基盤の強化に取り組み、多くの志のある会員諸氏と共に、人々の健康と幸福のため、それに貢献する作業療法士協会のために尽力したいと思ひ立候補します。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>札幌医科大学衛生短期大学部を卒業後、精神科病院勤務を経て札幌医科大学保健医療学部に入職し、精神障害領域を中心に学部・大学院の教育と研究に携わってきました。その間、1997 年度から北海道作業療法士会理事を 2 期 4 年間、2017 年からは日本作業療法士協会理事を 3 期 6 年務めています。その他、障害者就労支援関連の NPO 副理事長、NPO 北海道若年認知症のひとと家族の会副理事長、公職としては札幌市介護保険事業計画推進委員会委員長、札幌市認知症支援事業推進委員会副委員長として、地域での支援活動や自治体の支援システム作りにも携わっています。</p>		

理事 3

	氏 名	上田 裕久
	年 齢	45
	所属都道府県	徳島県
所属施設		
株式会社 豊結会		
立候補の趣旨		
<p>我々は、子供たちが健やかに生まれ育ち、高齢者の方々の生活の不安を和らげ、必要な医療や福祉が安心して受けられる社会を作っていかなければなりません。そのためには、各職種が専門性や多様性を高め、地域特性を踏まえたうえで、多職種連携による在宅医療や在宅介護の充実を図り、従来にない様々な対応が必要となります。各々の専門性は最大限に尊重し、相互に敬意を払い、尊敬と協力の関係が、より良い地域社会を作る基礎になると考えています。</p> <p>また、社会そのものの変化により、会員の意識や価値観の多様化など、日々会員のニーズは変化していますが、社会に作業療法を提供していくために、会員一丸となって作業療法の普及活動を行っていく必要があると考えています。少なくとも自分達の職種は、自分達で守る事が必要であり、その為には皆様の理解と協力が不可欠です。</p> <p>協会と会員が目的を共有し、情報交換を活発にすることで組織力を強化し、科学的な根拠に基づいた、その人が望む「作業」を提供できるよう、社会情勢に応じた人材育成を行っていきます。</p> <p>協会活動を身近に感じてもらいながら、社会のニーズに適切に対応できるよう、品格を保ち、職域を超えた活動にも注力し、作業療法士の地位向上に取り組んでいきたいと思い、立候補致しました。</p> <p>皆様、よろしくお願い致します。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p><学歴・職歴></p> <p>平成11年 3月 徳島医療福祉専門学校 作業療法学科 卒業</p> <p>平成11年 4月 田岡東病院(現:TAOKA こころの医療センター)</p> <p>平成16年 4月 徳島健祥会福祉専門学校(現:専門学校 健祥会学園)専任教員</p> <p>平成22年10月 株式会社 豊結会 代表取締役 就任</p> <p><士会活動></p> <p>平成25年11月 認定作業療法士 取得</p> <p>平成15年 4月 徳島県作業療法士会 理事</p> <p>平成30年 5月 一般社団法人 徳島県作業療法士会 副会長</p> <p>令和 2年 6月 一般社団法人 徳島県作業療法士会 会長</p>		

理事 4

	氏 名	大庭 潤平
	年 齢	48
	所属都道府県	兵庫県
所属施設		
神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科		
立候補の趣旨		
<p>この度、理事に立候補することを決意いたしました大庭潤平です。</p> <p>昨今、作業療法を取り巻く状況は大きく変化しています。それは、人々の価値観の多様性、新しい治療法や薬剤による医療技術革新、AI や IoT 等のテクノロジー革新、社会保障制度や自治体行財政の課題、グローバル社会への適応など様々です。その変化に作業療法は適応していかなければなりません。</p> <p>今、皆様はご自身の仕事に満足していますか。作業療法士としてのパフォーマンスは十分に発揮できていますか。職場の環境に満足していますか。日本作業療法士協会は、会員が作業療法士としての満足度や自己効力感を向上させ、会員とその家族の生活基盤を安定させるために存在意義があると考えています。そして、会員一人ひとりが作業療法士として様々な場所で活躍することが、国民の健康と幸福の負託に応えることに繋がると考えています。</p> <p>そこで、私が理事となり目標とすることは4つです。①協会の研修会・学術活動や補償保険制度などの会員サービスを向上させ、会員満足度を高める。②国内外の作業療法士同志が繋がる機会を増やし、作業療法帰属意識を高める。③作業療法の新しい領域の開発を推進し、作業療法士が活躍できる場を拡大する。④作業療法と作業療法士のイメージアップに取り組み、作業療法士を目指す若者や子供を増やす。</p> <p>以上の目標を達成するためには、代議員と会員の皆様、各都道府県作業療法士会をはじめとする多くの方々のご理解とご協力が必要です。ぜひ、私の示す目標にご賛同していただき、ご支援と応援をよろしくお願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法士（28年目）、博士（保健医療学） 認定作業療法士、MTDLP 指導者、臨床実習指導者 ・ 協会活動：常務理事（2017-2023）、理事（2013-2017） 現在は国際部長、事務局次長、APOTC 実行委員長等 今期の主な実績は日台学術交流協定締結や海外研修助成制度創設など ・ 現職：神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 ・ 専門分野：身体障害分野（義肢装具・福祉用具等の支援機器）、作業療法管理学 ・ 臨床活動：リハセンターや大学病院、現在はクリニックで臨床従事 ・ その他：医道審議会分科会委員、国際標準化機構専門委員（ISO）等々 		

理事 5

	氏 名	香山 明美
	年 齢	63
	所属都道府県	宮城県
所属施設		
東北文化学園大学医療福祉学部		
立候補の趣旨		
<p>私は、これまで14期協会役員をさせていただいております。2021・2022年度は前期と同様に副会長として会長を補佐するとともに事務局長として事務局を統括して参りました。また、白書委員長として、「作業療法白書2021」の発刊に向けて力を注いで参りました。</p> <p>協会事業の大きな柱となる「第四次5カ年戦略（2023-2027）」について、企画調整担当と協力しながら、理事会・常務理事会での議論を重ね、策定することができました。更に協会は「協会組織改編」に向け2018年度から様々な議論を重ね、2023年度に新体制に移行する予定で準備を進めて参りました。2023・2024年度はこの新たな組織体制に向けた助走の時として大変重要な時期だと認識しております。</p> <p>継続する協会内外の多くの課題に対してこの2年間、役員として可能な限り力を注いでいきたいと思い立候補致しました。</p> <p>日本作業療法士協会は、会員皆様のものであります。皆様の思いの結晶として協会が前に進んでいることを常に認識しながら活動して行きたいと思っております。</p> <p>どうぞよろしくお願い致します。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>作業療法士の免許取得後、宮城県立精神医療センター、みやぎ心のケアセンター等の精神障害領域・震災の被災者支援等を中心とした臨床での作業療法を実践後、</p> <p>2018年 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻教授</p> <p>2020年 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻専攻長・教授</p> <p>この間に日本作業療法士協会理事、常務理事、副会長、副会長（事務局長）として20数年活動して参りました。</p>		

理事 6

	氏 名	小林 毅
	年 齢	60
	所属都道府県	千葉県
所属施設		
日本医療科学大学保健医療学部		
立候補の趣旨		
<p>今回の理事任期では、十分な職責が果たせなかったと考えています。この反省に立って、次期はぜひ理事として発言できる理事会の運営、審議・議決機関としての理事会の役割を改めて意識した活動を心掛けたいと考えます。このためにも、理事会での質疑、議決ができるような部・委員会の会議体制など、今回の組織改編に応じて積極的に構築していく必要があると考えています。</p> <p>また、5カ年計画を新規に策定し、稼働します。この機会に、協会の事業活動全体の推進を図ることを意識しながらも、個人的には協会活動の関わりは教育関連の事業が始まりなので、協会員の質の向上に資する養成教育から生涯学修につながる一貫した教育体制の切り口から事業活動全体の推進に、少しでも努めたいと考えます。その一方で、財政的な課題も大きいところです。事業活動が膨らむ中で、必要性の優先順位を考慮するなど、身の丈に見合った予算による事業活動にしていく必要があると考えます。ここには、理事や評議員だけではなく、会員みなさまからの幅広い情報提供と意見の集約が必須であると考えます。</p> <p>作業療法協会が、設立 60 周年となります。これから 100 年へと継続できるように、次への橋渡しも重要な課題と考えます。課題山積の中、会員すべてが参加できる協会事業となるように努めたいと考えます。多くの会員みなさまの意見を必要としている現在、みなさまにもご負担をかけることもありますが、ご支援をいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>1986 年 作業療法士免許取得し、帝京大学医学部附属市原病院入職。その後、リハビリテーションセンター鹿教湯病院、帝京大学医学部附属市原病院、山形医療技術専門学校、帝京大学医学部附属病院、国際医療福祉大学三田病院、千葉県庁・千葉県立保健医療大学、厚生労働省、学校法人敬心学園を経て、2020 年から現職。</p> <p>一般社団法人日本作業療法士協会・一般社団法人千葉県作業療法士会のほか、公益社団法人日本リハビリテーション医学会、一般社団法人日本義肢装具学会、日本神経心理学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本作業療法教育学会、日本がんリハビリテーション研究会、終末期・緩和ケア作業療法研究会、等会員。</p>		

理事 7

	氏 名	酒井 康年
	年 齢	52
	所属都道府県	東京都
所属施設		
うめだ・あけぼの学園		
立候補の趣旨		
<p>これまで3期にわたり理事を務めてきました。</p> <p>この間、主に障害福祉領域および特別支援教育における作業療法士の活躍をサポートすること、制度的に安定した活動が実現すること、作業療法の発展に寄与することを目指して活動してきました。</p> <p>特に今期は主に制度対策部の部長として尽力してきたところです。</p> <p>障害福祉領域及び特別支援教育領域で活躍する作業療法は確実に増えてきているところではありますが、今後も引き続き安定した制度、取り組みとなるよう、理事として取り組んでいきたいと考え、4期目の理事に立候補することとしました。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>2002年 うめだ・あけぼの学園 入職 現在：副園長、児童発達支援管理責任者</p> <p>2017年 日本作業療法士協会理事 2019年 日本作業療法士協会常務理事 現在：事務局次長、制度対策部部长、生活環境支援推進室室長等を担当</p> <p>東京都作業療法士会 現在：監事、子ども委員会委員、地域包括ケア対策委員会委員</p>		

理事 8

	氏 名	佐藤 孝臣
	年 齢	54
	所属都道府県	大分県
所属施設		
株式会社ライフリー		
立候補の趣旨		
<p>この度、理事に立候補致しました佐藤孝臣でございます。いままで4期理事を務めさせていただきました。特に地域包括ケアシステム推進委員会の担当理事として活動を進めてまいりました。今回、再度理事に立候補したのは地域での作業療法士ニーズの高まりです。</p> <p>私事ですが現在、全国各地の自治体へ地域支援事業のアドバイザーとして仕事をしています。その中で総合事業の短期集中予防サービスの構築に課題を感じている自治体が大変多くあります。この短期集中予防サービスは手法として身体機能の向上に目が行くのですが対象者は生活不活発での心身機能低下の高齢者です。まずは生活機能のアセスメントそして、その後の具体的な活動や参加への目標設定が大変重要な部分になります。そこに作業療法士へのニーズがとてもあります。しかし現実としては実働している作業療法士は少数です。この事に関しては担当理事として責任を感じております。今後多くの作業療法士が輩出されていく中で働く場所として選択肢が多いことが魅力のある職業として認知されると考えます。また協会の組織改編においても地域包括システムの構築において大きい転換期を迎えております。その土壌造りと組織作りまた人材育成と各士会との連携において今一度、理事として活動を行わせていただければ幸いです。宜しくお願い致します。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>日本作業療法士協会理事 4期 2015～地域包括ケアシステム推進委員会 47都道府県委員会 MTDL室 2017～地域包括ケアシステム推進委員会 47都道府県委員会 2019～地域包括ケアシステム推進委員会 2021～現在 地域包括ケアシステム推進委員会 制度対策部</p>		

理事 9

	氏 名	島崎 寛将
	年 齢	42
	所属都道府県	大阪府
所属施設		
大阪府済生会富田林病院		
立候補の趣旨		
<p>「会員に優しい協会運営を行って欲しい」この言葉は協会部内の会議である部員の方が発した言葉です。私もそうあるべきだと思います。特に今、3つの視点で優しくあるべきだと考え、このたび理事に立候補させて頂きました。</p> <p>①会員にとって優しい協会（作業療法士としてのステップアップを共に喜び、称え、支援する協会）②運営に携わる会員にも優しい協会（自分の時間を削って協会のために日々活動している部員の声が届き、労が報われる協会運営）、③作業療法を必要とする人に優しい協会（必要な人が作業療法を利用できるための社会や次世代の成り手への情報発信）</p> <p>現在、組織率の低下が課題ですが、協会が若い世代から見た時にもっと身近な存在になればならないと感じます。そのためには、それぞれの作業療法士のステップアップを協会が審査する立場ではなく、それぞれがライフスタイルに合わせて歩みを進めることができるよう多様なコンテンツを用意し、成長を共に喜び、その努力を認定といった形で公に称え、さらなる成長を支援する。そのような協会運営の姿勢をわかりやすく示すべきと考えます。また、今、協会運営の大部分は各部の部員の方々によるボランティアで支えられています。しかし、残念なことに協会活動により心身に疲労、不調を感じておられる方が少なからず居り、そのような功労者が協会活動から離れざるを得ない状況を懸念します。</p> <p>ITの活用などもっと時代に即した業務の負担軽減を図り、運営の最先端にいる現場の声が届く、協会・士会員も各部員も役員も横断的に議論できる場をもっと作る。それが今大切なのではないかと思います。そのために若輩者ですが貢献できればと思います。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>2002年作業療法士免許取得。ベルランド総合病院、大阪府済生会富田林病院、大阪府立病院機構大阪国際がんセンターでの勤務等を経て、2020年より再び大阪府済生会富田林病院リハビリテーション科技師長として勤務。</p> <p>主な士会歴・協会活動歴等は、大阪府作業療法士会（保険部部員2年／理事2年）、日本作業療法士協会（制度対策部10年7ヶ月／教育部7年6ヶ月／代議員7年10ヶ月）、その他（日本リンパ浮腫治療学会評議員）。</p>		

理事 10

	氏 名	清水 兼悦
	年 齢	60
	所属都道府県	北海道
所属施設		
札幌山の上病院		
立候補の趣旨		
<p>このたびの理事会にて理事会推薦候補を拝命いたしましたので、改めて立候補させていただきますことといたしました。</p> <p>2015年度以降、理事2期および常務理事2期の4期8年の任期の間、JRAT やレジリエンスを含めた災害対策関連、第50回学会からの学会や学術関連、理学療法士協会とともに行う地域保健総合推進事業関連、運転と作業療法関連などの協会事業活動に勤しみ、近々では2023年度からの協会組織の再編に向けて、災害対策や地域移動を含めた地域社会振興局や、学術・学会関連委員会の在り方などに焦点を絞った事業活動に勤しんでまいりました。</p> <p>このたび、今まで勤しんでまいった協会事業活動をさらに発展させるため、平時から有事に備えた災害作業療法や地域移動も含めた地域社会振興の検討や推進、作業療法関連学会や都道府県士会の学会も含めた学術学会評議の検討や推進などに、北海道士会、都道府県作業療法士会、日本作業療法士協会役員としての事業活動を通して培った経験や人脈、使命感をもって、皆さまとともに未来の作業療法や作業療法士の役割を拓いて行きたく立候補いたしました。“やれること やれるとき やれるだけやる”をモットーに精進します。</p> <p>皆さまのご支援、よろしくお願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>1985年：北海道大学医療技術短期大学部作業療法学会卒業 1988年：札幌山の上病院入社 2003年：同リハビリテーション部長 2004年：日本作業療法士協会認定作業療法士取得 2009年：北海道作業療法士会代表理事、都道府県作業療法士会北海道・東北地区代表 2014年：都道府県作業療法士会長、札幌医科大学保健医療学部臨床教授 2015年：日本作業療法士協会理事 2016年：第50回日本作業療法学会会長、北海道リハビリテーション専門職協会副会長 2019年：日本作業療法士協会常務理事</p>		

理事 11

	氏 名	関本 充史
	年 齢	44
	所属都道府県	大阪府
所属施設		
株式会社リニエ L (旧：株式会社かなえるリンク)		
立候補の趣旨		
<p>私は、理事 1 期、常務理事 1 期を務め、広報部長、制度対策部副部長、第 8 回アジア太平洋作業療法学会広報・宣伝委員長、訪問リハビリテーション振興委員会副委員長などを務めて参りました。作業療法の普及・啓発を中心に、都道府県作業療法士会広報関連部局との連携、日本理学療法士協会・日本言語聴覚士協会・訪問看護財団等との連携、地域リハビリテーションの推進に邁進して参りました。</p> <p>地域共生社会は、世代や分野をこえてつながることで、その人がいきいきと暮らせる地域をつくっていくことです。その中で作業療法士が活躍する場は、医療分野だけでなく保健・介護・教育・就労・行政・司法分野など幅が広がっています。より一層作業療法士が活躍するために、都道府県作業療法士会との連携を深め、ニーズ把握・分析・実行を迅速に対応できる強い組織づくりをしていきたいと考えております。学術・広報・制度対策の連携をより一層強化し、作業療法の啓発と地位向上に力を注ぎます。どうぞよろしくお願い致します。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>2002 年 国際医療福祉大学 保健医療学部 卒業 2023 年 山形県立保健医療大学大学院 博士前期課程 修了 2002 年 株式会社メディケア・リハビリ 入社 2012 年 株式会社かなえるリンク 取締役 就任 (2023 年 4 月 株式会社リニエ L へ商号変更) 2010 年 一般社団法人大阪府作業療法士会 理事 (2016 年 副会長、2018 年 会長) 2017 年 介護予防活動強化推進事業 大阪府アドバイザー就任 2018 年 大阪府作業療法士連盟 事務局長 2019 年 一般社団法人日本作業療法士協会 理事 (2021 年 常務理事)</p>		

理事 12

	氏 名	高島 千敬
	年 齢	50
	所属都道府県	広島県
所属施設		
広島都市学園大学		
立候補の趣旨		
<p>7期目に向けた立候補となる。これまで、主に身体障害領域の診療報酬改定に向けた役割を担ってきた。</p> <p>疾患別リハでは、呼吸器・心大血管疾患リハビリテーション料・リンパ浮腫複合的治療料、排尿自立指導料などの作業療法士による算定を実現し、昨春の運動器リハビリテーション料の慢性期の運動器疾患への糖尿病足病変の追記を主動した。</p> <p>最近では、透析時運動指導等加算などの新設項目に、最初から作業療法士の職名が記載されるようになってきた。これまでの渉外活動の結果であると考えている。</p> <p>ただし、普及については課題も多い。先日、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会と日本フットケア・足病医学会のシンポジウムに登壇した。両学会共通して、医師、理学療法士等の関連他職種から、チームに必須の職種としての期待が寄せられている。特に印象に残っているのは、作業療法士が早期から参入することで、対象者の目標設定が明確になり、非常に助かっているという発言である。</p> <p>チームにはマネジメントをする職種が重要であり、ICFでいう活動や参加を支援の中心とする作業療法士の職務が、チーム活動の中で評価されているのである。</p> <p>一方で、これらの領域に作業療法士が興味を持ってくれない、業務過多を理由に参入してくれないという声も聞かれた。</p> <p>知らないものはないという次元の思考なのかもしれないが、過去10年を考えても、作業療法士の職域は拡大してきている。臨床の対応力の拡大は急務である。</p> <p>国民の期待に応える作業療法士を養成するためには、養成教育、卒後教育の更なる充実が欠かせない。要望活動と並行して、制度改定後の普及促進を図ることを次期の課題としたい。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p><職 歴></p> <p>1999年4月 倉敷平成病院 リハビリテーション科</p> <p>2000年4月 大阪学大学医学部附属病院 リハビリテーション部</p> <p>2015年10月～ 広島都市学園大学 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻</p> <p><日本作業療法士協会における活動></p> <p>2006年6月 保険部員</p> <p>2007年6月 学術部員（内部障害委員会 委員長、課題研究倫理審査委員）</p> <p>2011年6月～ 日本作業療法士協会 理事（6期12年、制度対策部、学術部を担当）</p>		

理事 13

	氏 名	高橋 香代子
	年 齢	43
	所属都道府県	神奈川県
所属施設		
北里大学		
立候補の趣旨		
<p>作業療法士の働き方は、ますます多様化してきています。私の周囲でも、回復期病院で経験を積んだのちに、出産育児を経て、小児領域で短時間勤務を始めるなど、ライフステージに合わせて、専門領域や働き方など柔軟に変えながら、作業療法士として仕事を続けている人が多くいます。日本作業療法士協会は「作業療法士の学術技能の研鑽及び人格の陶冶に努め、作業療法の普及発展を図り、もって国民の健康と福祉の向上に資すること」を目的としています。今後さらに領域や働き方が多様化していく中で、どの世代の作業療法士も夢と希望をもちながら安心して働ける環境を整備する、私もその協会活動の一端を担いたいと思い、この度理事に立候補させていただきました。</p> <p>私は理事として、特に日本の作業療法の国際化を推進したいと考えています。国際部員として事業に携わるようになり、今年度で16年になります。その間、世界作業療法士連盟や世界保健機関においても役割をいただき、海外から見た日本の緻密で思慮に富んだ作業療法の素晴らしさに改めて気付かされました。また、世界で二番目に作業療法士の有資格者数が多く、独自の教育システムを持つ日本は国際的にも注目されており、海外からの留学・研修の申し込みは増加してきています。日本からの海外派遣制度や、留学生の受け入れ制度などの整備は急務といえます。今後さらに国際機関との連携を深め、国内外の作業療法の発展に寄与していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>協会活動歴：</p> <p>世界作業療法士連盟（WFOT）第一代理・オブザーバー（2014- 現在） 世界保健機関（WHO）福祉用具 外部専門諮問委員（2022- 現在） アジア太平洋作業療法学会誘致・実行委員会（2018- 現在） 国際部部員（2007- 現在）WFOT 委員会委員長（2021- 現在） 教育部部員 WFOT 教育委員（2017- 現在）、学術部部員（2019-2022）</p> <p>学歴・職歴：</p> <p>博士（医科学）米国ボストン大学（2008） 北里大学東病院・北里大学病院（2008- 現在） 北里大学医療衛生学部（2012- 現在）</p>		

理事 14

	氏 名	竹中 佐江子
	年 齢	44
	所属都道府県	東京都
所属施設		
株式会社リニエ R (旧 株式会社東京リハビリテーションサービス)		
立候補の趣旨		
<p>私は、作業療法士として 21 年間、一貫して小児領域に携わってきました。そして、地域でのリハニーズに対し提供できるリソースの少なさを実感し、一人でも多くの作業療法士が小児に関われるよう質の担保と同時に量の確保の必要性を訴えて参りました。この数年、地域で子どもに関わる実践の場が増えるとともに、作業療法士の活躍の場が広がっていることを肌で実感しています。本領域に目を向けられるということは、子どもを取り巻く環境、これからの未来を見据えた支援が求められ、幅広く長期的な視点を持つことに繋がります。これは、本来作業療法士が担うべき個々の暮らしを自立支援の観点から生涯に渡り、かつ切れ目なく支援することに通じると考えます。一方で、小児現場では、医療、福祉、教育、保健等の制度の枠組みだけで完結しない場面に数多く遭遇します。地域では、枠組みを超えた多職種協働、地域課題に応じた新たな支援の形が必要であることに現場で従事する作業療法士の多くは気づいています。しかし、未だに我が国の療法士は、公的制度に左右されやすい環境下に置かれています。公的制度だけに頼らず、私たちの専門性を発揮し、価値を伝えることのできる後押しが当協会には求められているのではないのでしょうか。作業療法士の活躍の場が病院から地域に拡大した今、医療的知識や技術のみならず、子どもの数十年後を見据え、自らサービスを創造する発想力、その価値を伝える分析力と広報力、そしてそれを実践し継続させるマネジメント力が必要です。私は、今日生まれた子が 20 年後、50 年後に安心して地域で暮らせるために、地域共生社会の実現に寄与できる組織作りを目指し立候補致しました。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>2002 年 神戸大学医学部保健学科 卒業 2002 年 特定医療法人大道会 ポバース記念病院 入職 2007 年 株式会社メディケア・リハビリ 入職 2010 年 株式会社東京リハビリテーションサービス 入職 2012 年 同法人取締役 就任 (2023 年 4 月 (株)リニエ R に商号変更) 2018 年 一般社団法人日本訪問リハビリテーション協会 理事 就任 2021 年 一般社団法人日本作業療法士協会 理事 就任 (教育部 副部長・47 都道府県委員会 副委員長) 2022 年 一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 常務理事 就任 2023 年 小児リハビリテーション医学会 評議員</p>		

理事 15

	氏 名	辰己 一彦
	年 齢	46
	所属都道府県	奈良県
所属施設		
株式会社 UT ケアシステム		
立候補の趣旨		
<p>【立候補の理由】</p> <p>現在、国や協会では、「地域生活移行支援の推進」が提唱されております。更に 2040 年に向けた「地域共生社会」の実現へ動き出しています。</p> <p>私自身も 2017 年より「地域包括ケアシステム推進会」にて作業療法士の地域支援事業への参画の為、微力ながら尽力して参りました。その中で、実際の地域の現場では、働く場所や環境と働く人の質や量など課題が山積していることが分かりました。医療介護領域における財政緊縮化が進められるの中、多くの作業療法士が病院施設勤務となっており、我々の職域の拡大は喫緊の課題だと感じています。社会のニーズと作業療法士の数の増大を考えると、子ども・精神・就労・保健・福祉・教育・その他の分野で支援が行える人材をより多く輩出することが不可欠だと考えています。地域共生社会の実現を見据えた人材育成と地域に根差した作業療法士の普及展開を行う。これが、今を生きる我々の使命であると、私は考え立候補をいたしました。</p> <p>作業療法士の更なる飛躍の為に、志す人の為に、活躍の場の創出の為に七転び八起きの精神で精勤いたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【部署活動履歴】</p> <p>地域包括ケアシステム推進委員会委員 2017.6-2022.3 地域包括ケアシステム推進委員会委員長 2022.4- 現在 その他役職歴：社員（奈良県）2019.12- 現在</p> <p>【経歴】</p> <p>2010 年に起業。小児発達支援事業、通所介護事業、訪問看護事業、総合事業、相談支援事業、就労移行支援事業、就労継続支援事業、共同生活援助事業、講演活動、地域貢献事業など 地域作業療法の普及展開を実施。</p>		

理事 16

	氏 名	谷川 真澄
	年 齢	60
	所属都道府県	福井県
所属施設		
有限会社なるぞ		
立候補の趣旨		
<p>理事 2 期目 2021 ～ 22 年度は、MTDLP 副室長、地域包括ケア推進委員会担当理事を務めました。MTDLP 指導者定義・登録制度の運用、MTDLP 多領域事例への指導助言の取り組み、地域支援事業参画推進等、いずれも士会・会員の皆様のご理解とご協力ご支援があって前に進めることができましたことを心から感謝申し上げます。</p> <p>皆様のご理解を得ながら次の 2 年間で実行したいことが 3 つございます。地域共生社会へと進む中、作業療法（士）はその社会的役割を果たさなければなりません。5 カ年戦略に沿ってまずは「地域会員～士会～ブロック～協会」の連携強化を士会の皆様と共に進めて参ります。2 つめに OT 協会定款（事業）として新たに「作業療法士の社会的地位、労働環境、福祉の改善・向上に関する事業」を加えることを提案します。組織として会員にしっかり向き合い、具体的取り組みの充実を図り、会員のロイヤリティを高めるよう努めます。3 つめですが、協会の収支管理については抜本的な見直しが必要と考えます。収入（協会費の再設定、研修参加費の再設定、新たな収入部門の検討）と支出（事業の集中と配分、協会職員の人事管理制度の構築、ボランティア会員への会議費設定等）の検討を提案することです。</p> <p>さて、我々は若い世代の人々に向け、作業療法を夢がある仕事として語る事ができるでしょうか。夢を語るには、作業療法の普遍性を守りながらも、新しい作業療法の可能性と広がりを生み出し続けることだと考えます。そのような組織をつくり、人をつくることを基本に理事として務めたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>[協会活動歴]</p> <p>理事 2019.05- 現在</p> <p>MTDLP 士会連携支援室室長 2018.04-2019.06</p> <p>MTDLP 推進プロジェクト委員会委員長 2015.04-2019.03</p> <p>地域包括ケアシステム推進委員会委員 2015.08-2020.03</p> <p>MTDLP 推進プロジェクト委員会委員 2014.03-2015.03</p> <p>規約委員会委員 2005.06-2007.06</p> <p>保険部部員 2001.06-2003.06</p> <p>【主な職歴等】</p> <p>社会医学技術学院卒 福井総合病院 加賀こころの病院 現職</p>		

理事 17

	氏 名	谷口 敬道
	年 齢	57
	所属都道府県	栃木県
所属施設		
国際医療福祉大学成田保健医療学部作業療法学科 大学院保健医療学専攻作業療法学分野		
立候補の趣旨		
<p>この度、初めて理事に立候補させていただきました。その理由は、理事となり作業療法の発展のために志を共にする皆様と議論して会員の皆様と一緒に、更なる作業療法の発展に邁進したいと考えたからです。特に、私は、次回の理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則等改正に向けて、未来ある若者の教育に責任を持ち、より良い教育を提供するために努力してまいります。3年制から4年制への教育形態の移行や18歳人口の減少に伴い、若者の志願者数が減少する中、協会としての課題を明らかにして、未来の作業療法士たちが社会に貢献できるような環境を整備していくことが重要であると考えます。</p> <p>私は、作業療法士養成教育において、若者一人ひとりを大切に、作業療法の本質に則った教育を提供することが非常に重要であると考えています。私自身、27年間の学士課程教育を通して約2,500人を超える作業療法士を輩出し、その経験から、若者たちが持つ可能性と可能性を引き出すことが、作業療法士養成教育の使命であることを痛感しています。</p> <p>伝統的な3年制教育の中で育まれた作業療法士養成教育は、高い実践能力の獲得を実現してきました。私は、この伝統を守りつつ、未来の作業療法士たちがより良い教育を受け、社会に貢献できるよう、努力してまいります。</p> <p>以上が私が理事に立候補する理由です。皆様のご支援をお願いいたします。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>（略歴）1988年国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院卒。東京理科大学、日本大学大学院理工学研究科医療・福祉工学専攻博士課程修了 博士（工学）。社会福祉法人重症心身障害児施設毛呂病院光の家の臨床経験を経て、1993年財団法人国際医療福祉大学設立準備室に入職し現職。4キャンパス統括学科長。</p> <p>（県士会）2005年から現在まで副会長。特別支援・スクールOT推進委員会委員長。栃木県リハ専門職協会副会長。</p> <p>（社会活動）那須塩原市地域自立支援協議会会長を2008年から現在。那須町教育支援委員会委員を2017年から務め、2020年より委員長。那須町地域巡回相談事業、栃木県特別支援学校指導充実事業ほか。</p>		

理事 18

	氏 名	土居 義典
	年 齢	43
	所属都道府県	千葉県
所属施設		
有限会社総合リハビリ研究所		
立候補の趣旨		
<p>私は（2002年）新卒時から訪問看護ステーションに勤務し、訪問リハビリテーション業務、運営、管理に関わってきました。ここ数年は就労支援事業、障害者グループホーム、生活介護などの障害福祉分野の事業開設、運営、管理を担い、またアジア圏におけるリハビリテーション事業の発展にも従事しております。国民皆保険分野を含め、幅広く作業療法士によるマネジメントの経験を詰んできました。これらの経験を活かし、介護保険分野の制度要望に関する協会活動に従事させていただきました。</p> <p>その中で、地域で働く作業療法士の地位向上、生活の安定や賃金向上を目標にするための、現状把握や要望活動等の視点が不足していると考えております。私は、2040年を見据え、介護保険領域、障害福祉領域において、作業療法士が安心して働ける場所の提供を目標に、身につけたい知識・技術を学べる研修の充実、会員同士が情報を共有できるプラットフォームの構築等を進め、また未来ある若者が、作業療法士として働きたいとの希望がもてる社会の実現に貢献したいです。</p> <p>理事に立候補するにあたり、岡山県作業療法士会、千葉県作業療法士会の皆様、協会事務局の皆様、そして新卒からご指導、経験を積む機会をくださいました二神雅一様。ここに感謝の意を表します。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【部署活動履歴】 日本作業療法士会 制度対策部 介護保険対策委員会 委員 2012年～2018年 同 委員長 2019年～現在</p> <p>【その他（役職歴）】 岡山県作業療法士会 理事 2014年～2017年 訪問リハビリテーション振興委員会担当理事、広報部委員、保険部委員 千葉県作業療法士会 理事 2018年～現在 地域連携推進委員会担当理事、調査部担当理事、制度対策委員会担当理事 リハビリテーション専門職協議体 リハビリテーション振興委員会 委員 2021年～現在</p>		

理事 19

	氏 名	能登 真一
	年 齢	57
	所属都道府県	新潟県
所属施設		
新潟医療福祉大学		
立候補の趣旨		
<p>初めて理事に立候補します。私はこれまで学会や学術誌などの学術面を中心に協会の活動に関わってきました。MTDLPの開発にも携わってきましたが、これも学術面からのサポートが主でした。</p> <p>これらの活動あるいは自身の臨床・研究活動を通して感じてきたのは、PTと比較した時のOTの学術面でのアピールの弱さです。もちろん、PTとの勝ち負けの問題ではありませんが、医療職である作業療法士にとって、エビデンスの少なさや弱さは時に致命的となり、臨床現場や教育現場など様々な局面で有利に働かないという現実があります。</p> <p>これを打開していくためには、どちらかと言えば内向きになっている現行の種々の制度を外向きに発信していけるような思い切った革新が必要ではないかと考えています。そのために、作業療法士の誰もが、それぞれの専門性を追求し、新しい知見や技術を身に付けるという当たり前のことを協会が強力にサポートしていくシステムを構築することが理事を目指す最大の理由です。もちろん、最終的なゴールは対象者やその家族の幸福の実現であり、作業療法士の地位向上ですが、それらの実現のためにも協会が主導して作業療法の学術面を強化していく必要があると考えている次第です。</p> <p>私自身はアカデミアの1人としてQOL尺度の開発やそれを用いた経済評価を主な研究テーマとしていますが、作業療法の効果は薬物療法など他の医療技術にそんな色がないほど大きいと確信しており、協会の学術活動を通してそれをアピールするための環境整備に尽力させていただければ幸いです。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>聖マリアンナ医科大学病院，筑波記念病院で勤務 2001年 筑波大学大学院医科学研究科修了 2005年 金沢大学大学院医学研究科博士課程修了 【協会役員歴等】 2001年～2003年 学術部部員（研究法手引書委員会） 2011年～2018年 学術部部員（生活行為向上マネジメント事業） 2013年～2021年 学会運営委員長 2011年～現在 学術誌「作業療法」編集委員 2021年～現在 制度対策部 部員</p>		

	氏 名	早坂 友成
	年 齢	46
	所属都道府県	東京都
所属施設		
杏林大学保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻／医学部精神神経科学教室		
立候補の趣旨		
<p>2021年5月の総会にて初めて理事を拝命し、今期は学術部と教育部を担当させて頂きました。学術と教育は職能団体において基礎となるものです。そのため、今期は理事の重責を自覚する重要な経験となりました。皆様との様々な協業に深くお礼を申し上げます。今期を経て、次期においても更なる作業療法の発展に寄与したく、立候補させていただきました。</p> <p>私の公約は3つございます。1つ目は、新時代における作業療法教育の確立です。研修会などの学びのスタイルはこの2年間で大きく様変わりしました。私は当会における研修システムの変革に携わり、参加者から頂いた多くのアンケート結果から、新たな学びの時代が到来したことを確信しています。今後も当会会員の教育環境を充実させ、新生涯学修制度をはじめとした新たなシステムの構築に尽力いたします。2つ目は、日本の作業療法を国内外に発信する仕組みづくりに尽力します。近年では大学院へ進学する作業療法士が増えたこともあり、国内における作業療法の研究水準は確実に向上しています。しかし、それらの成果を国内外に発信する仕組みについては十分とはいえません。私は学術の更なる飛躍を促進いたします。3つ目は、臨床、教育、研究における精神科作業療法士の活躍を推進します。私は精神科作業療法士として、医療や地域における役割の確立、学術におけるエビデンスレベルの向上、この2点を重要課題とし、作業療法の源流である精神科作業療法の発展に邁進します。</p> <p>最後に、これらの公約には各都道府県作業療法士会様との連携・協力が欠かせません。皆様と一緒に未来の作業療法を創造できますと幸いです。ご支援を何卒お願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
杏林大学保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻・准教授 杏林大学医学部精神神経科学教室・兼任教員 専門作業療法士（精神科急性期）、博士（保健医療学） 日本作業療法士協会・理事（教育部、学術部）：2021年～現在 第8回アジア太平洋作業療法学会・実行委員：2021年～現在 日本作業療法士協会・代議員（東京都）：2019年～現在 第16回東京都作業療法学会・学会長：2019年 東京都作業療法士会・選挙管理委員長：2016年～現在 日本総合病院精神医学会・リエゾンコメディカル委員：2015年～現在 日本うつ病作業療法研究会（SIG）・事務局長：2010～現在		

理事 21

	氏 名	二神 雅一
	年 齢	57
	所属都道府県	岡山県
所属施設		
株式会社 創心會		
立候補の趣旨		
<p>現在、人口減少や家族・地域社会の変容が急速に進み、地域の抱える課題も多様化しています。地域には、療育が必要な子ども達や様々な理由による不登校・引きこもり、障害を理由に就労場を確保できない人、認知症や高齢単身世帯の生活難民など、理由の如何を問わず、世代を超えて「活動」や「参加」が制限されている人たちが多く存在します。年齢や性別、障害の有無・区別なく、社会の構成員として健康的で文化的な生活を実現するために、地域には OT がまだまだ必要です。しかし、OT が地域に広く展開するには、現在の制度的な環境は、安心して働くには不十分だと考えます。私は 2019 年に協会理事を退任後、ライフワークとしている「地域共生型自立支援事業」を推進するにあたり、様々な規制に向きあいながらなんとか形を作ってきました。このような事業に OT がもっと容易にチャレンジできる環境を創っていきたいと思います。</p> <p>また、私たちの多くの業務に関わる制度や予算を決める議会において、リハビリテーション = PT として議論が進んでいることに大変な危機感を感じています。そこに OT がしっかり入っていく事、更には OT のことは OT が議論に加わり主導できるような政治力をつけることも必要ではないかと思えます。</p> <p>こうした課題に対し私が取り組むべきこととして、① OT が安心して地域に展開するために必要な制度対策、②身分保障の対策強化、③ OT を取り巻く政治的課題を解決する渉外力の強化、④日本 OT 連盟との協働推進と地方連盟の組織強化、以上 4 項目を掲げ、再び理事に立候補することに致しました。宜しくお願い致します。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>職歴</p> <p>1986 年愛媛十全医療学院卒業後 4 年間精神科の作業療法士として勤務</p> <p>1992 年より在宅リハビリサービス会社に勤務</p> <p>1996 年創心会在宅ケアサービス（現：株式会社 創心會）を創業</p> <p>現在創心會グループ代表</p> <p>協会活動歴</p> <p>2005 年～ 2019 年 制度対策委員</p> <p>2015 年～ 2018 年 理事</p>		

	氏 名	三澤 一登
	年 齢	61
	所属都道府県	愛媛県
所属施設		
一般財団法人積善会 愛媛十全医療学院		
立候補の趣旨		
<p>私が、理事に選出され9期18年になり全て選挙にて選出いただいたのは役員活動に対し一定の評価を頂いた結果と感謝しております。今期は、制度対策部長から教育部長を拝命し、主に養成・生涯教育及び研修運営に関わり会議の殆どがオンラインでの開催で利便性は向上しましたが、会議回数と時間拘束は倍増しております。渉外活動は日本発達障害ネットワーク副理事長として厚労省：社会保障審議会関連部会、国土交通省：バリアフリー法関連委員会へ参加し障害者の活動参加に繋がるよう当事者の意見と医療専門職としての視点で対応した結果、作業療法士の職名記載も実現しております。作業療法士を取り巻く環境は、コロナ禍の影響と社会保障制度の変化と共に新たな職域が拡大する一方で医療領域においては厳しい現状が今後も継続すると推察されます。協会は組織体制を再編し事務局機能強化と協会員＝士会員で強靱な組織に変わる必要があります。2025年からの指定規則・カリキュラム改正への対応や新生涯学修制度の導入に向け重要な時期と認識しております。今後も養成教育と臨床現場が今まで以上に連携し、持続可能な作業療法の提供と作業療法士の質の担保が求められます。そのためには、作業療法の成果・効果の立証が重要で作業療法士の存在価値を自ら主張することが重要です。多職種連携は、お互いの専門性を認知して互いを活かせる環境が対象者への適宜・適切なサービスに繋がると確信しております。また、当事者・家族の声を聞き医療専門職として何ができるのか具体的に実現可能な提言をする必要があります。協会活動に対しは役割を頂き真摯に取り組んでまいりますので引き続き宜しく申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>協会役員歴 *理事：2005～2013年 *常務理事：2013年～2022年 -現在 *教育部：部長 2021年～2022年 -現在 *制度対策部：副部長 2012年～2017年 部長 2017年～2021年 *倫理委員会：委員 2013年～2021年 *表彰委員会委員 2015年～2021年 *養成教育検討委員会委員 2005年～2006年 その他 *日本発達障害ネットワーク 副理事長 2023年3月 -現在 *役員歴：社員（愛媛県）2011年～現在</p>		

理事 23

	氏 名	村井 千賀
	年 齢	62
	所属都道府県	石川県
所属施設		
石川県立こころの病院		
立候補の趣旨		
<p>令和6年度は診療報酬、介護報酬、障害保健福祉の同時改定の年でもある。また、それに向け、令和5年度は、介護保険法改正、介護保険事業第9期計画の策定、第8期医療計画策定と大きな制度改正の重要な年でもある。</p> <p>これまで、理事6年を務め、精神科作業療法に関する報酬改定に向け、厚生労働省はもちろん、日本精神科病院協会をはじめ、公的精神科病院協会、日本精神神経医学会等との連携の構築、その上で作業療法士の機能と役割の理解が得られるよう働きかけを行ってきた。</p> <p>協会会員に対しては、精神科作業療法の運用マニュアルの提示、意見交換を行い、精神科作業療法士が臨床の現場で活動できるよう支援を行ってきた。</p> <p>また、認知症では、日本老年精神医学会の中に作業療法ワーキングの設置、令和6年度介護報酬改定に向け、現在老人保健健康増進等事業を受託しつつ、訪問による作業療法の検証、日本医師会をはじめ各団体に理解が得られるための普及、推進を行っている。</p> <p>今後も引き続き、各学会及び各団体との関係構築を図るための渉外活動を継続しつつ、令和6年度同時改正に向け、作業療法技術の普及について、引き続き貢献していきたい。</p> <p>さらに、MTDLPについては、指導者の強化、事例登録方法の検討、臨床での普及の推進、卒前教育から一貫した取り組みの検討、全国都道府県士会との連携による推進支援を図り、作業療法の質の向上に貢献したい。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
1982年3月	金沢大学医療技術短期大学部作業療法学科卒業	
1982年4月	加賀八幡温泉病院(現八幡メディカルセンター)就職	
1986年10月	石川県保健所勤務	
1999年4月	石川県リハビリテーションセンター異動	
2006年4月	石川県健康福祉部健康推進課異動	
2007年4月	石川県立高松病院(現こころの病院)作業療法科異動	
2009年3月	金沢大学医学系保健学後期課程修了	
2014年4月	厚生労働省老健局老人保健課出向	
2016年4月	石川県立高松病院(現こころの病院)作業療法科勤務	
2022年4月	石川県立こころの病院認知症疾患医療センター異動	

理事 24

	氏 名	山本 伸一
	年 齢	58
	所属都道府県	山梨県
所属施設		
社会医療法人 加納岩 山梨リハビリテーション病院		
立候補の趣旨		
<p>今期は、協会全体の動きを把握し、そのなかで様々な活動や協会内部の調整等、身の引き締まる期間でありました。反省も多くありますが、三役・理事関係者や事務局スタッフ等と共に奔走したことは、今後につながると思います。</p> <p>また、関係省庁・各種団体との連携、渉外活動にも努めさせていただきました。日本医師会、リハビリテーション専門職団体協議会、リハビリテーション医療関連団体協議会、チーム医療推進協議会、訪問リハビリテーション振興財団、日本訪問看護財団等との渉外は、協会としても確実な財産になっています。さらなる渉外活動の強化と共に啓発・広報等を強化してまいります。</p> <p>一方、組織率の問題がございます。これまで47委員会や作業療法士学校養成施設連絡会等でご説明してきたところです。2022年度は、前倒しで組織率対策委員会を設立いたしました。次年度からの組織力5か年戦略における大きな方向性としては、協会と士会、学校養成施設そして勤務先（職域）の連携を強化し、入会率向上・退会率の抑制を図ります。目指しているのは、輝いている作業療法士、魅力のある日本作業療法士協会です。それが組織率を保つ源だと思えます。</p> <p>作業療法士の活躍の場は、乳児から高齢者まで。介護予防から急性期・回復期・生活期、そして終末期のすべてに作業療法を。在宅復帰に留まらず、就学・就労・趣味拡大等、いきがいを持った「真の暮らし」のために作業療法があります。わたしたち作業療法士だからわかること、そして出来ること。すべての集合体組織力をさらに強化し、力を合わせてまいります。</p> <p style="text-align: center;">対象者との出会いが私たちを強くする。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【職歴】昭和62年(1987) 3月 愛媛十全医療学院 作業療法学科 卒業 昭和62年(1987) 4月 医療法人財団 加納岩 山梨温泉病院 (現社会医療法人 加納岩 山梨リハビリテーション病院)入職 現在に至る</p> <p>【受賞歴】平成28年(2016) 厚生労働大臣表彰</p> <p>【日本作業療法士協会活動】平成13年(2001)～ 理事 平成21年(2009)～ 常務理事 平成29年(2017)～ 副会長</p> <p>【山梨県作業療法士会活動】平成2年(1990)～ 理事 平成8年(1996)～ 副会長 平成20年(2008)～令和4年(2022)会長</p>		

会長立候補

会長 1

	氏 名	小林 毅
	年 齢	60
	所属都道府県	千葉県
所属施設		
日本医療科学大学保健医療学部		
立候補の趣旨		
<p>理事立候補の趣旨で述べたように、協会の活動は課題が山積していると考えています。これからを見据えた5ヵ年計画ととともに事業を展開していく中、しっかりと今までを振り返り、その課題を焦点化し、課題解決の工程を考えていくPDCAサイクルをマネジメントすることが重要と考えます。後方視的のご批判もあるところですが、敢えて、この課題の解決に取り組みたいと思います。</p> <p>協会組織の改編を実施して、これから協会設立60周年、そして100年、その先へと向かう中では、協会事業にかかわる多くの人材が必要になります。協会事業を、もっと「見える化」して、会員みなさまと共に考え、行動できる仕組みを作ることも重要と考えます。理事・代議員だけではなく、会員みなさまと何とか凝集性を高めて、乗り切る必要があると考えます。多くの会員が、自ら関わる協会事業の展開にできるように考えたいと思います。</p> <p>全ての協会事業が、当然大切であることはもちろんです。しかし、その中でも、作業療法の質を担保するための教育制度は重要だと考えます。養成教育から生涯学修への一貫した、継続するシステムの構築とその深化は、これからの作業療法、作業療法士の根幹となると考えています。誰もが「認定作業療法士」を目指し、取得できることを推進する協会なのですから、会長はじめ理事も「認定作業療法士」であるべきだと考えます。理事など役職ではなく、全ての会員が同じ壇上で、切磋琢磨しながら質を維持向上できる、そのような夢を持ちながら会長を務めたいと考えます。</p> <p>ご支持いただければ、幸いです。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>1986年 作業療法士免許取得し、帝京大学医学部附属市原病院入職。その後、リハビリテーションセンター鹿教湯病院、帝京大学医学部附属市原病院、山形医療技術専門学校、帝京大学医学部附属病院、国際医療福祉大学三田病院、千葉県庁・千葉県立保健医療大学、厚生労働省、学校法人敬心学園を経て、2020年から現職。</p> <p>一般社団法人日本作業療法士協会・一般社団法人千葉県作業療法士会のほか、公益社団法人日本リハビリテーション医学会、一般社団法人日本義肢装具学会、日本神経心理学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本作業療法教育学会、日本がんリハビリテーション研究会、終末期・緩和ケア作業療法研究会、等会員。</p>		

会長2

	氏 名	関本 充史
	年 齢	44
	所属都道府県	大阪府
所属施設		
株式会社リニエ L (旧：株式会社かなえるリンク)		
立候補の趣旨		
<p>人口減少が続く中、毎年 4,000 名以上の若者が増え、半数以上が若い世代である職能はそうありません。作業療法士は、医療・介護・福祉分野だけでなく、保健・教育・就労・行政・司法など幅広い領域にまで及びます。</p> <p>私は、21 年間作業療法士として地域へ携わってきました。20 歳代から一般社団法人大阪府作業療法士会の理事に携わり、2018 年からは会長に就任致しました。地域包括ケアシステムの整備推進という時流から、会長就任以来自治体から事業受託できる体制づくりを進め、今では 10 以上の自治体から受託できるまでになりました。士会理事体制も経験豊かな諸先輩方のサポートを受けながら、次世代を担う若者に世代交代を進めてまいりました。これは、私自身で成し遂げたものではなく、大阪府作業療法士会会員の諸先輩方はじめ会員の仲間が一丸となって協力してくださったからです。</p> <p>日本は、人口減少による働き手不足、社会保障費の削減などにより、地域共生社会の実現に向けて整備が進められています。作業療法士は、地域で活躍することを推進すべきですが、医療分野以外に関わる作業療法士数の伸び悩み、協会会員率の低下、養成校の定員割れ、長年給与所得水準が上がらないなどの課題が山積です。作業療法士の地位向上のためには、学術と制度対策と広報の連携をより一層強化し、作業療法の有用性と地域のニーズに応える体制づくりに注力したいと考えます。</p> <p>自分たちの未来は、自分たちの手で創り上げていきたいです。何より、国民に役立つ作業療法であるために。どうぞよろしくお願い致します。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>2002 年 国際医療福祉大学 保健医療学部 卒業</p> <p>2023 年 山形県立保健医療大学大学院 博士前期課程 修了</p> <p>2002 年 株式会社メディケア・リハビリ 入社</p> <p>2012 年 株式会社かなえるリンク 取締役 就任 (2023 年 4 月 株式会社リニエ L へ商号変更)</p> <p>2010 年 一般社団法人大阪府作業療法士会 理事 (2016 年 副会長、2018 年 会長)</p> <p>2017 年 介護予防活動強化推進事業 大阪府アドバイザー就任</p> <p>2018 年 大阪府作業療法士連盟 事務局長</p> <p>2019 年 一般社団法人日本作業療法士協会 理事 (2021 年 常務理事)</p>		

会長3

	氏名	山本 伸一
	年齢	58
	所属都道府県	山梨県
所属施設		
社会医療法人 加納岩 山梨リハビリテーション病院		
立候補の趣旨		
<p>1. 作業療法士の臨床力を確かなものにします。</p> <p>2. 社会保障を守り、職域を拡大します。</p> <p>3. 会員個人 - 職域（勤務先） - 各都道府県士会 - 学校養成施設 - 当協会の集合体組織力を確固たるものにします。</p> <p>4. 事務局は、迅速・正確・良質のある部署横断的な機能を強化します。</p> <p>この4つが公約でございます。</p> <p>昨今、私たちを取り巻く環境は、時代と共に多様化しています。しかし、作業療法の核は変わりません。私たちに求められているのは「確かな臨床力」です。教育部におけるコンソーシアム構想を現実なものとし、協会 - 士会の強固な連携体制を構築します。また、診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等における報酬の維持・増収や職域の拡大等においては、わたしたちの命綱でもあります。これまでの関係各省庁や各団体への渉外活動をさらに充実・強化します。事務局体制は2023年が再編元年となりますが、各部・委員会のガバナンスの徹底、そして一体感のある強い組織をつくり直します。そのうえで、会員 - 職域 - 各都道府県士会 - 養成校 - 協会の集合体組織力を持った連帯を創ります。組織率の問題が取り沙汰されています。コロナ禍が3年間も続いたことの影響があると思います。しかしそれは理由にはなりません。ここで取り戻す必要があります。会員にとって魅力のある協会であること。課題は山積しています。しかし、私たちはやり遂げます。</p> <p>作業療法士一人一人が対象者と共に輝くために。</p> <p>一般社団法人 日本作業療法士協会は、未来の作業療法を、そして作業療法士を必ず守ります。</p> <p>何卒よろしくお願い申し上げます。</p>		
略歴（協会活動歴、職歴など）		
<p>【職歴】昭和62年(1987) 3月 愛媛十全医療学院 作業療法学科 卒業 昭和62年(1987) 4月 医療法人財団 加納岩 山梨温泉病院 (現社会医療法人 加納岩 山梨リハビリテーション病院)入職 現在に至る</p> <p>【受賞歴】平成28年(2016) 厚生労働大臣表彰</p> <p>【日本作業療法士協会活動】平成13年(2001)～ 理事 平成21年(2009)～ 常務理事 平成29年(2017)～ 副会長</p> <p>【山梨県作業療法士会活動】平成2年(1990)～ 理事 平成8年(1996)～ 副会長 平成20年(2008)～ 令和4年(2022)会長</p>		

JAPAN
01